プレスリリース

猪熊弦一郎展 変化と不変

2013年1月13(日)－4月4日(木)

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

展覧会に関するお問い合わせ及び資料のご請求先：
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
公益財団法人ミモカ美術振興財団
担当＝古野華奈子

〒763-0022 香川県丸亀市浜町 80-1
tel:0877-24-7755
fax:0877-24-7766
<http://www.mimoca.org/ja/press/>

【展覧会概要】

展覧会名： 猪熊弦一郎展 変化と不変
会 場： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
会 期： 2013年1月13日(日)－4月4日(木) (82日間) 会期中無休
開館時間： 10時－18時 (最終入館17時30分)
主 催： 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、公益財団法人ミモカ美術振興財団
特別協力： 香川県立ミュージアム
観覧料金： 一般950円 [760円] 大学生650円 [520円] (常設展観覧料を含む)
* []内は前売り及び20名以上の団体料金
高校生以下または18歳未満・丸亀市内在住の65歳以上・各種障害者手帳お持ちの方は無料

*前売券販売場所：

[丸亀] あーとらんどギャラリー (0877-24-0927) オークラホテル丸亀 (23-2222) おみやげSHOP MIU (22-2400) きままや (22-9361)

*作品保護のため、会期の途中で一部の作品を変更いたします。(前期：1月13日(日)－2月22日(金)／後期：2月23日(土)－4月4日(木))

【展覧会趣旨】

香川県立ミュージアム＋MIMOCA 猪熊弦一郎の秀作が丸亀に集結！

猪熊弦一郎(1902-1993)は、70年の画業のなかで幾度か作風を大きく変化させました。初期の写実的な人物像、戦後の幾何学的な抽象画、晩年の顔の連作と、年代を追って作品を並べても、まるで複数の画家の作品を見ているかのようにバラエティーに富んでいます。一方で、全く違うイメージのなかに、モチーフ、構図、色のバランスなど、共通する部分も見受けられます。本展は、猪熊の画業を回顧し、新しい美の表現を求めることで作風が変化し続けた猪熊芸術において、逆に変わることのなかった「猪熊らしさ」に注目するものです。作風の違う作品を隣り合わせ、特徴ごとに展覧することで、変化と不変の両面からその魅力をお伝えします。

また、本展では、香川県立ミュージアムの所蔵する猪熊の秀作約30点を中心に、当美術館所蔵品とあわせて展示します。香川県民の財産ともいえるこれらのコレクションを一堂に会して、猪熊芸術を一望するまたとない機会となることでしょう。

【主な見どころ】

1. 香川県立ミュージアム所蔵の猪熊作品をMIMOCAに展示！

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(MIMOCA/ミモカ)では、猪熊弦一郎の作品を多数所蔵していますが、同じ香川県にある香川県立ミュージアムにも、猪熊作品のコレクションがあります。香川県が

昭和 44 年度に購入した 2 点にはじまって、県が所蔵する猪熊の作品は、現在では 150 点を超え、猪熊の各時代を代表する秀作が数多く含まれた大コレクションとなっています。

一人の作家の作品を専門の施設が一か所にまとめてコレクションすることは、その作家を調査研究する上で、またその顕彰においても、大変意義深いことです。猪熊弦一郎においては、出身地の香川県で、香川県立ミュージアムと MIMOCA の 2 館が中心となってその役割を担っているのです。

本展は、香川県立ミュージアムの特別協力により、同館所蔵の猪熊作品よりカンヴァス作品 30 点を借用し、当館所蔵品とあわせた約 50 点によって、猪熊の画業を回顧するものです。同じ作品でも、展示スペースや隣り合う作品によって見え方は変わってきます。また、同じ作家とは言え、2 館のコレクションは、制作年や色合いなどの点で作品の傾向が多少異なります。そのため、当館所蔵品のみで構成した展示と比べると、猪熊の印象が違って見えるかもしれません。MIMOCA に展示される香川県立ミュージアム所蔵の名品たちが、どのような空間を生み出すのか、どのような猪熊像を結ぶのか、ご期待ください。

2. 具象画と抽象画、まったく違う 2 枚の絵が「似ている」？

猪熊は長い画業のなかで次々にその作風を変えました。特に、具象画から抽象画への変化は劇的で、同じ作家が描いたとは思えないほどです。けれども、一見全く異なる 2 枚の絵にも、相似する点を見つけることができます。それは絵の「バランス」、具体的には色遣いや構図です。美しいとは、つきつめればバランスの良さではないかと考えていた猪熊は、生涯を通じて、自分なりの美しいバランスを探求していました。描くものが人や動物の姿であろうと、抽象的な図形であろうと、常にバランスをどうするのか考えながら、色や形を配置していたのです。その点に注目して鑑賞すると、実は初期の人物画と晩年の抽象画が似ていることにもお気づきになるでしょう。それこそが猪熊が変わらなかった点であり、言い換えれば、猪熊らしい表現なのです。

※出品作品例の広報用画像をご希望の際は、データにてお送りいたしますので、当館ウェブ上のプレス用ページ (<http://www.mimoca.org/ja/press/>) よりお申し込みください。なお、著作権の都合上、画像をご掲載の際は必ずクレジット等のご記載もあわせてお願い申し上げます。

[関連プログラム]

■子ども～大人向けワークショップ イロ・カタチ・バランス

二種類のワークショップをご用意しています。時間内ならどちらでも自由にご参加いただけます。

1. ○△□、限られたパーツを組み合わせて絵をつくります。自分だけの「バランス」を見つけてみませんか？

2. 実物大の猪熊作品のパーツを置きかえて、あなたの絵につくりかえましょう。

日時：2013年2月2日(土)・3日(日)、3月2日(土)・3日(日)

各日 10:00-12:00、13:30-15:30

場所：2階造形スタジオ

対象：子どもから大人まで

参加料：無料

申込：不要

*時間内随時入場可能です。ただし一度に制作できる定員は40名ですので、定員を超える場合はお待ちいただくことがあります。

■キュレーターズ・トーク

本展担当キュレーター（古野華奈子）が展示室にて展覧会の見どころをお話します。

日時：会期中の日曜日 14:00-

参加料：無料（ただし展覧会チケットが必要です）

申込：不要（美術館1階受付前にお集まりください）

[展覧会等のお知らせ]

■同時開催 常設展

猪熊弦一郎展

会期：2013年1月13日(日)～4月4日(木) 会期中無休

【作家略歴】

猪熊弦一郎 / Genichiro Inokuma

- 1902年 12月14日、香川県高松市に生まれる。本名、玄一郎。
- 1921年 旧制丸亀中学校（現 香川県立丸亀高等学校）を卒業。
- 1922年 東京美術学校（現 東京藝術大学）に進学し藤島武二教室で学ぶ。写実的な作品を描く。
- 1926年 帝国美術院第7回美術展覧会に《婦人像》で初入選。以後、第10回展、第14回展で特選となるなど、1934年まで主に帝展を舞台に活躍する。
- 1936年 純粋に絵画を追求するため小磯良平らと新制作派協会（現 新制作協会）を結成。以後、発表の舞台とする。
- 1938年 フランスに遊学（1940年まで）。アンリ・マティスに学ぶほか、現地で多くの実作を見る機会を得て、主に人物像でいろいろな描きかたを試す。戦後は人物や猫などのモチーフを四角く角ばらせたり、逆に丸みをもたせて描いたり、他にも現実とは違った色を用いるなど、形や色の効果をさらに追求する。
- 1950年 第2回毎日美術賞を受賞する。三越の包装紙《華ひらく》をデザインする。イサム・ノグチが来日、親交を結ぶ。
- 1951年 上野駅中央ホール壁画《自由》を制作。
- 1955年 再度パリでの勉強を目指し、アメリカ経由でヨーロッパに出発。途中滞在したニューヨークの魅力につかまり約20年間を同地で過ごす。具象の面影は消え、直線と円を中心とした幾何学的な作品を多数制作。
- 1958年 香川県庁舎、四面の壁画《和敬清寂》を制作する。
- 1964年 国立近代美術館賞を受賞する。
- 1973年 日本に一時帰国中、病に倒れる。
- 1974年 香川県文化会館にて開催の〈新しい日本の美術5人展〉に作品24点を出品する。
- 1975年 ニューヨークのアトリエを引き払う。その後、冬の間をハワイで、その他の季節は東京で制作するようになる。ハワイの日光と自然に接し、鮮やかな色彩と不定形の複雑な形があふれる絵画を描く。
- 1982年 香川県文化会館にて〈猪熊弦一郎回顧展〉を開催する。
- 1987年 丸亀市が市制90周年事業として丸亀市立猪熊弦一郎記念美術館（仮称）の建設を発表する。
- 1988年 妻、文子を亡くす。グリッドに顔を並べた作品を描くようになる。
香川県文化会館にて〈猪熊弦一郎展〉を開催する。
香川の置県百年を記念して香川県へ作品100点を寄贈。香川県文化功労者として香川県より表彰される。
- 1989年 丸亀市へ作品1,000点を寄贈。
- 1991年 11月23日、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館。丸亀市初の名誉市民証が授与される。
- 1992年 所有するすべての作品などを丸亀市に寄贈する趣旨の文書提出。以降、順次丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に搬入。
- 1993年 第34回毎日芸術賞を受賞する。5月17日逝去、90歳。